

鹿島鉄道廃線敷のバス専用道化の検討について

鹿島鉄道廃線敷をバス専用道として整備し、定時性と速達性のあるバスを運行することを検討するものである。この事業は、「公設民営」を基本として行う事業としては日本初であり“(仮称)地方型BRT”と位置付けられることができ、得られる事業効果も大きいと予測される。今後、関係者を含め具体化に向け詳細な検討を進めることとしている。

・ ・ 別紙 1

1 整備スキーム（公設）

区 間	旧石岡駅～旧常陸小川駅間（延長 7,350m 幅員 4～6 m）
整備手法	市道認定し、バス専用道（法根拠：道路法、道路交通法）として整備
概 算 整備内容	バス専用道整備・バス購入・バス停・バス優先通過システム・信号機等 （整備費については、全て公費負担とする。）

2 運営スキーム（民営）

利用者数	旧鹿島鉄道利用実績を参考に 1,600 人/日を想定する
運行計画	バス 4 台（+1 台予備）による、10 分間隔の高密度運転
運 賃	均一料金を想定して検討する（旧石岡駅～旧常陸小川駅）
所要時間	旧石岡駅～旧常陸小川駅間（7km） 20～25 分→16 分に短縮 石岡駅～茨城空港間（15km） 約 25 分（空港直行バス）

3. 効 果

- ・ 高校生を始めとする沿線住民の公共交通利便性（料金・時間・定時性・運行本数）が大幅向上（代替バスより 5～10 分短縮）
- ・ 茨城空港への利便性向上と PR 効果
- ・ 国道 355 号の渋滞緩和への寄与と、地球温暖化対策
- ・ 地域活性化の起爆剤として都市再生に寄与

4. 今後の検討課題

- ・ 用地は、鹿島鉄道より無償譲渡又は無償貸与を受ける必要がある。
- ・ 費用対効果の検討（事業費の詳細な算出）
- ・ 運営主体の決定及び運営スキーム策定
- ・ バスの優先通行のための交差点協議と信号機設置
- ・ 利用促進のためのモビリティ・マネジメントの実施検討

5. 検討会の構成

- ・ 石岡市、小美玉市、県都市計画課、県道路建設課、県交通対策室、県空港対策室、県警交通規制課、鹿島鉄道(株)、関東鉄道(株)、関鉄グリーンバス(株)、学識経験者等

かしてつ廃線敷を活用した地方型BRT計画(案)

<別紙1>

